

臨床医学 内分泌代謝領域

甲状腺体積測定の臨床応用
健診で甲状腺腫大を指摘された若年者における検討

教授 さかね さだき 坂根 貞樹 (臨床医学研究室)
E-mail sadaki.sakane@setsunan.ac.jp

キーワード 甲状腺腫大 健康診断 超音波検査
甲状腺腫瘍 自己免疫性甲状腺疾患



研究概要

背景

■ 1980年代、甲状腺に超音波検査が導入された時期から簡便な体積測定法を開発し臨床研究を行ってきました。甲状腺は画像診断の有所見率30%、女性の15%に自己抗体陽性と異常所見が多い器官で、近年過剰診療についても議論されています。健診で甲状腺精査を指示された若年者についての検討をお示しします。

目的

■ 健診の甲状腺異常所見の信頼性について検討する

対象

■ 学校健診等で甲状腺の異常を指摘され市立ひらかた病院を受診した35名(女性34名) 17~25歳(平均20.4歳)のうち甲状腺腫大で要精査は29名

結果

- 二次検査の受診は女性97% 著しい性差あり
- 専門医の診察でも異常所見あり 8/35 22.8%
- 甲状腺体積測定値が基準値以上 5/29 17.2%
- 抗甲状腺抗体陽性例 9/34 26.5%
- 超音波で結節性病変など有所見 17/35 48.6%
- 細胞診で甲状腺癌合併 4例 (全例手術)

考案

■ 健診での甲状腺腫大指摘は信頼性に乏しいが、二次検査の有所見率は高く、自己抗体陽性例とともに手術を要する腫瘍合併例も高頻度に見いだされ、若年女性における甲状腺精査の有用性が確認された。

連携への展望

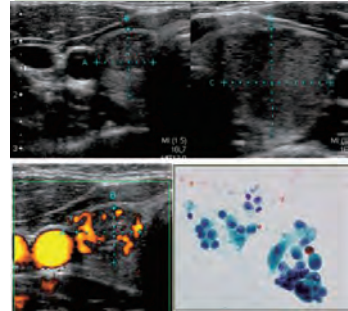
食品栄養学の領域で甲状腺と関連が深いのはヨウ素です。ヨウ素摂取量が例外的に多い本邦では、諸外国と比べて甲状腺腫瘍の種類や予後に特徴があり、甲状腺腫大度もヨウ素摂取と関連することが知られています。甲状腺癌は若年者にも多い悪性腫瘍として注目されており、最近の食生活の変化にともなう食事のヨウ素含量についての調査が必要であると感じています。

有所見指摘時の年齢分布と甲状腺体積



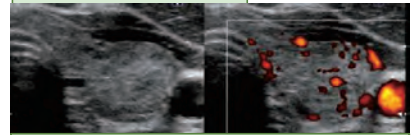
二次検査での甲状腺超音波所見

症例 23歳女性



甲状腺体積 19.5 ml
右葉石灰化病変から細胞診 乳頭癌

症例 17歳女性



甲状腺体積 15.7 ml
抗甲状腺抗体陽性 慢性甲状腺炎



アピールポイント

糖尿病や甲状腺診療の現場で感じた課題や疑問について、食品栄養学の視点から新たなアプローチの研究を目指しています。